

## 小児の訪問看護についての豆知識



セコムでは、小児から高齢者まで幅広い年齢層に対し訪問看護サービスを提供しています。小児の利用者はまだ多いとはいえませんが、年々訪問の依頼は増えています。今回は小児の訪問看護についてのお話です。



**小児看護の経験がないので、自信がありません。**



小児は成長発達途上であり身体状態が変わりやすく、また、ご両親の期待や思いの強さなど大人とは異なる特殊性があり敷居を高く感じてしまいますよね。



はい。小児の看護を自分にできるのか...不安が大きいです。



**実際、訪問看護の現場で初めて小児を経験するスタッフはいるんですか？**



実は多くのスタッフが、初めて小児を訪問看護の現場で経験しています。セコムには小児科経験者が在籍しているだけでなく、小児の訪問看護経験の蓄積・ノウハウがあります。また、経験がない人へは小児の基本的な理解から始め、「子どもへの接し方」「医療ケアを自宅で行う場合の準備や実施方法」「育児」「発達相談」「親御さんへの気持の配慮」など、勉強会や同行訪問を通して学びを深めていきます。



まずは理解することから始めるのですね。



そうですね。頭で理解できたことでも、勉強会や文献だけではイメージしにくいことは、実際の訪問を通して「こういうことか」と納得することが大切です。納得することで観察ポイントや両親のサポート、寄り添う看護の理解が深まります。



なるほど。小児の訪問は理解してひとつひとつ身に着けていくという感じですね。



同行訪問も一度で終わりではなく、先輩について学ぶ同行訪問と自分が主となりサポートを受ける同行訪問とを繰り返していくことで、不安なく訪問できるように取り組んでいきます。



傍で見守ってもらいながら、ケアを行えるというのは安心ですね。



一人ではなくチームで対応していますので、わからないことがあれば相談できますし、わからないことを具体化しその場でカンファレンスが始まることもあります。医療処置ケアは、研修施設での練習やステーションでシミュレーションも行います。これは小児だけでなく全ての訪問において共通していますよ。



**ただ、訪問看護自体の経験もないので…。**



まずは「訪問看護」の経験を積んでいくことからスタートしますので安心してください。小児科経験のある方を除いて、まずは慢性期の落ち着いたご利用者への訪問で経験を積んでいきます。その後、状態の変化のご利用者への訪問を重ね、ゆくゆくは小児の訪問を経験していくことになるかと思います。

小児科経験のある方からは、「逆に大人の訪問が不安です」という声も聞きますよ。



みなさんそれぞれ不安な部分があるんですね。

私も将来小児の訪問看護にもチャレンジしたくなりました。



年々小児の訪問看護の需要も高まっています。

医療ケアが必要な状況でも、ご利用者とご家族の生活が楽しく、一人ひとりの個性を大切にしながら一緒に成長できるような支援ができればいいですね。